

臨床能力重視型教育への模索 第二報

—臨床実習指導者による技術指導型特別講義を実施して—

2008.7.20

山口 信 1) 小堀晶弘 2) 松本里佳 2) 松原慶吾 2)

1)柳川リハビリテーション学院 2)メディカル・カレッジ青照館

[抄録]

臨床において起こりうる具体的な事象について実習前の学生に伝えるため、長期臨床実習指導者による実技中心のスポット的な講義を実施した。講義終了後と評価実習終了後に受講者にアンケートを実施した。その結果 84%の学生が特別講義には意義があったと回答し、96%の学生が「臨床への理解が深まった」と回答するなど、多くの学生が特別講義について肯定的にとらえていた。講義内容については嚥下の実技指導に関する講義に対して「意義があった」「臨床に対する理解が深まった」「臨床での患者の対応に役立つと思った」「再度受講したいと思った」と回答する学生が多かった。嚥下の実技指導以外では、各病期・疾患における言語聴覚療法(以下 ST)や、各所属領域における ST、失語症関連などの講義に対して意義を感じている学生が多かった。今後も現場 ST による実技中心のスポット的な講義を実施する必要があると思われる。

[はじめに]

現在、言語聴覚士 (以下 ST) 養成校で教鞭を執っている教員はその多くが豊富な臨床経験を経て来た ST であり、自らが臨床で学んだ経験を後輩に伝えようと日々努力されている。また、その内容は体系的かつ系統だったものであり、学生の言語聴覚療法全体に対する理解に大きな力となっている。

他方、学生の学ぶべき領域は極めて広範で多岐に渡るため、実技指導に当てる十分な時間が確保できないという声もよく聞く。また、職責や経営の都合上臨床から遠ざからざるを得ない教員も存在し、こうした教員にとってはなかなか臨床の生々しさを学生に伝えられない、自身も臨床の勘が鈍ってしまうのではないかと不安である、という悩みも耳にする。

臨床において起こりうる患者の反応、治療の効果、リスクなどのさまざまな要因について、で

きるかぎり臨床に即した形で実習前の学生に伝える機会を少しでも増やす必要があると考える。

今回我々は、長期臨床実習の指導者を講師として、各講師の得意分野・学生に伝えておきたい分野についてスポット的に技術指導を行う特別講義を実施した。

[特別講義実施項目]

各講義については学校側が臨床実習指導者にアンケートで講義項目を提示して希望する項目を選んでもらい、調整して実施した。また、指導者の方から希望して項目を立てて実施した講義には※印を付記した。

| 分野 | 項目 | コマ数 |
|------------------|------------------|-----|
| 各病期・疾患における言語聴覚療法 | 急性期の言語聴覚療法 | 1 |
| | 回復期の言語聴覚療法 | 2 |
| | 慢性期の言語聴覚療法 | 1 |
| | 訪問リハの言語聴覚療法 | 1 |
| 各所属領域による言語聴覚療法 | 特別養護老人ホームの言語聴覚療法 | 1 |
| | 老人保健施設の言語聴覚療法 | 1 |
| | 幼稚園教育における言語聴覚療法 | 1 |
| | 成人と小児の診療の相違点 | 1 |
| 失語症関連 | 全失語の言語聴覚療法 | 1 |
| | ※失語症友の会 | 1 |
| 嚥下関連 | 摂食嚥下訓練のリスク管理 | 1 |
| | 摂食嚥下訓練の体位 | 1 |
| | 口腔ケアの要点 | 1 |
| | 顔面周囲の評価 | 1 |
| | 口腔ケア実技 | 1 |
| | 嚥下実技 | 1 |

| | | |
|---------|----------------|----|
| 患者の QOL | 日常生活への般化 | 1 |
| | 患者の QOL を上げるには | 1 |
| 訓練の阻害要因 | 拒否について | 1 |
| | 認知症患者の言語聴覚療法 | 1 |
| 基礎項目 | ※科学・技術文章の書き方 | 2 |
| | 画像診断のコツ | 1 |
| | STS の倫理 | 1 |
| | 総コマ数 | 28 |

[講義を実施した科目]

言語聴覚障害特別講義

[講師]

平成 19 年度メディカル・カレッジ青照館長期臨床実習指導者の有志 11 名。事前にアンケートで協力の意志を確認した。協力の意志のある指導者とは非常勤講師として学校が契約を結んだ。臨床経験は最長が 25 年、最短が 2 年、平均 8.6 年。最多臨床経験年数は 3 年が 4 名。

[受講者]

メディカル・カレッジ青照館第 3 学年 29 名。本校は 4 年制養成校。

[期日]

平成 19 年 7 月 25 日（水）～8 月 4 日（土）

[総授業時数]

90 分 28 コマ。56 時限。言語聴覚障害特別講義の総授業時数は 80 時限。

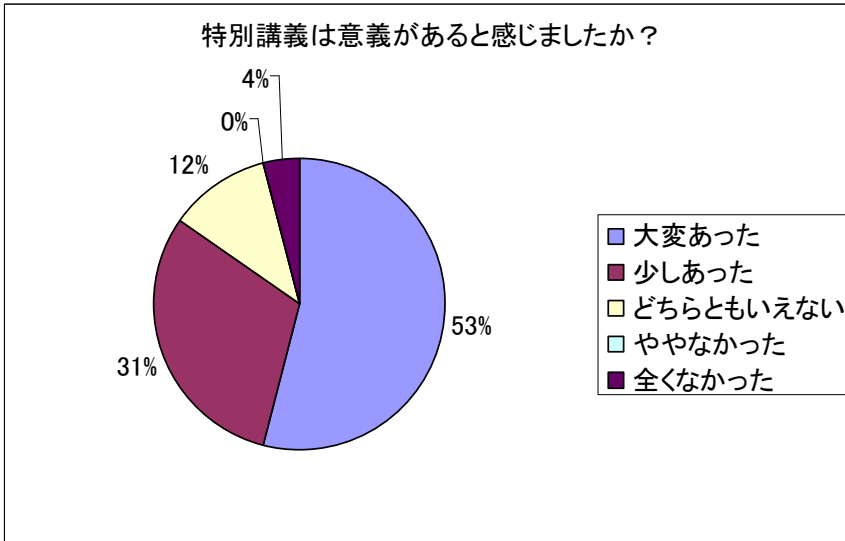
[授業内容]

講義と演習。

[アンケート結果]

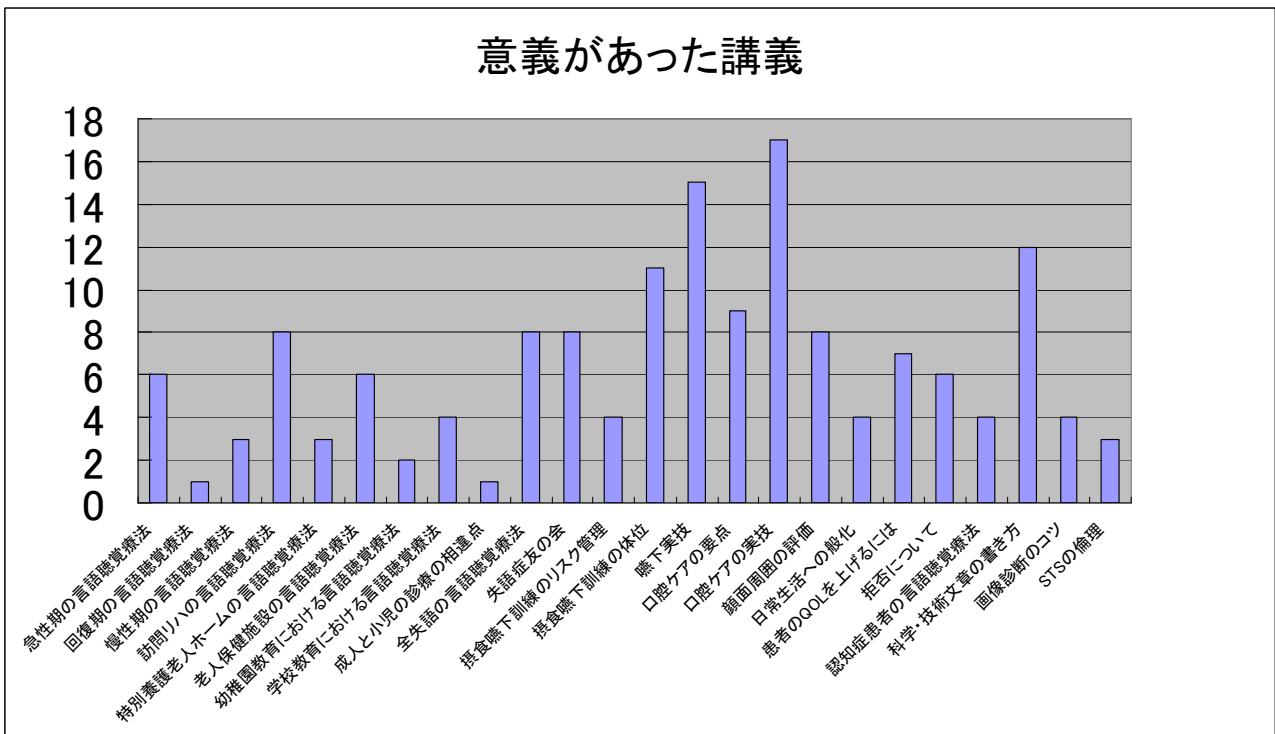
全講義終了後と評価実習終了後に2回、特別講義について受講者にアンケートを行った。質問項目は別紙の通り。

質問1 特別講義は意義があると感じたか。



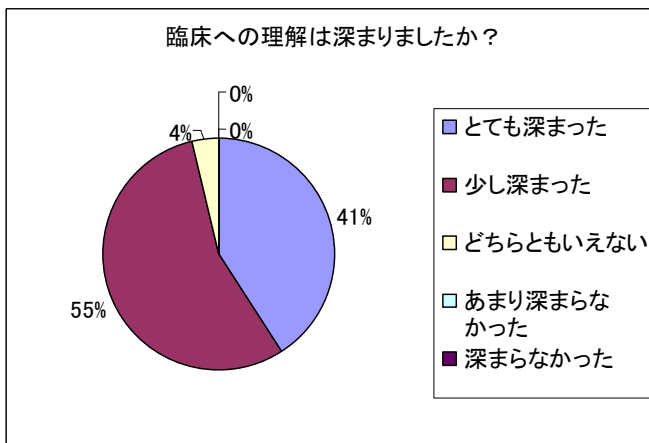
84%の学生が「特別講義には意義がある」と感じていた。

質問2 特に意義があると感じた講義。



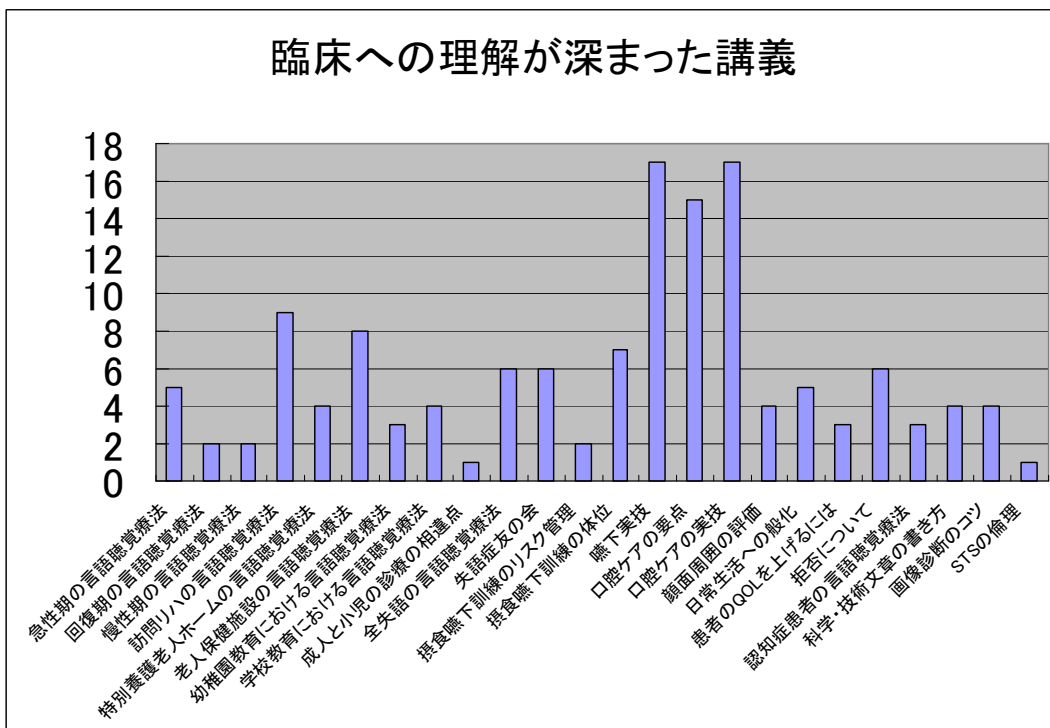
「接触嚥下訓練のリスク管理」「嚥下実技」、「口腔ケアの要点」「口腔ケア実技」「顔面周囲の評価」など、嚥下の実技指導に対して多くの学生が「意義がある」と感じていた。それ以外には「急性期の言語聴覚療法」「訪問リハの言語聴覚療法」「老人保健施設の言語聴覚療法」「全失語の言語聴覚療法」「失語症友の会」「日常生活への般化」「科学技術文章の書き方」「拒否について」などに意義を感じる学生が多かった。

質問 3 特別講義で臨床への理解は深まったか。



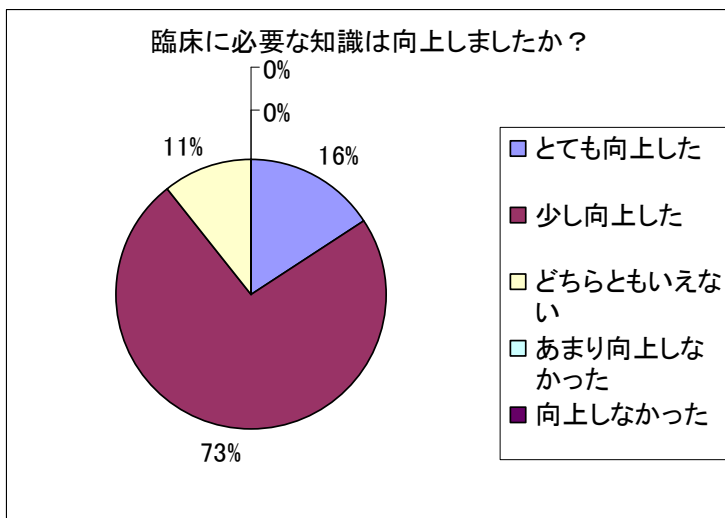
96%の学生が「臨床への理解が深まった」と感じていた。

質問 4 特別講義で臨床への理解が深まったと特に感じた講義。



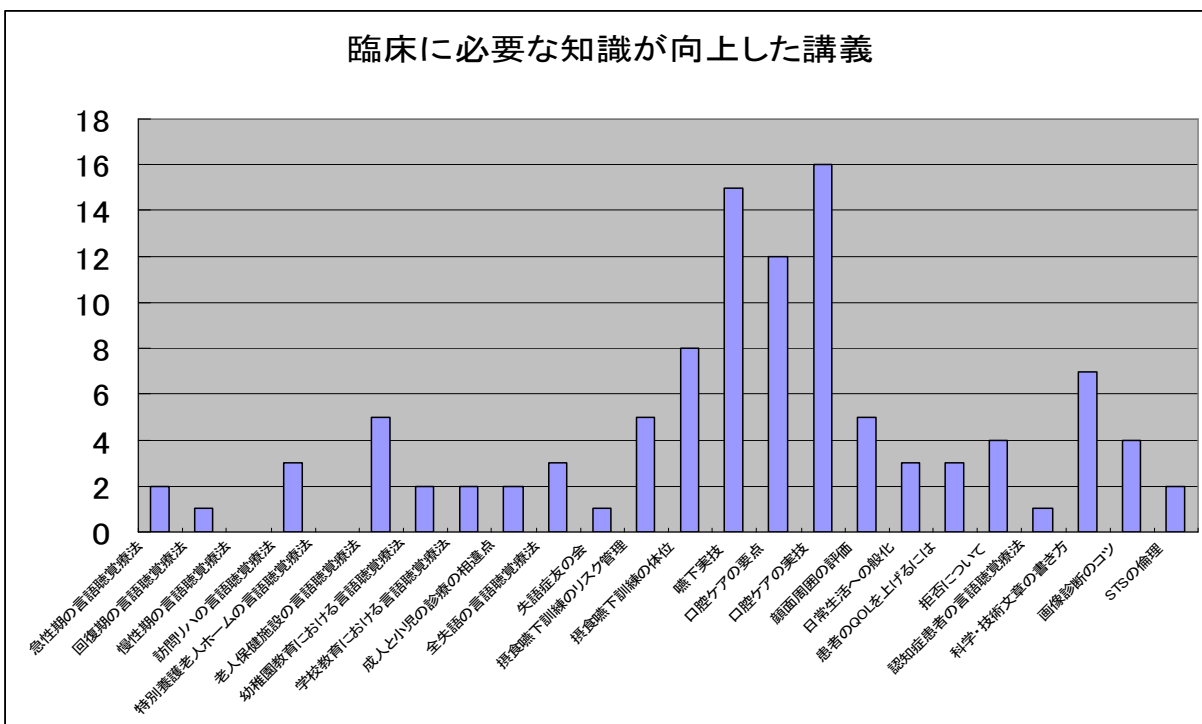
「摂食嚥下訓練の体位」「嚥下実技」「口腔ケアの要点」「口腔ケア実技」など、嚥下の実技指導に対して多くの学生が「臨床に対する理解が深まった」と感じていた。それ以外には「訪問リハの言語聴覚療法」「老人保健施設の言語聴覚療法」「全失語の言語聴覚療法」「失語症友の会」「拒否について」などの講義で臨床に対する理解が深まったと考える学生が多かった。

質問5 臨床に必要な知識は向上したか。



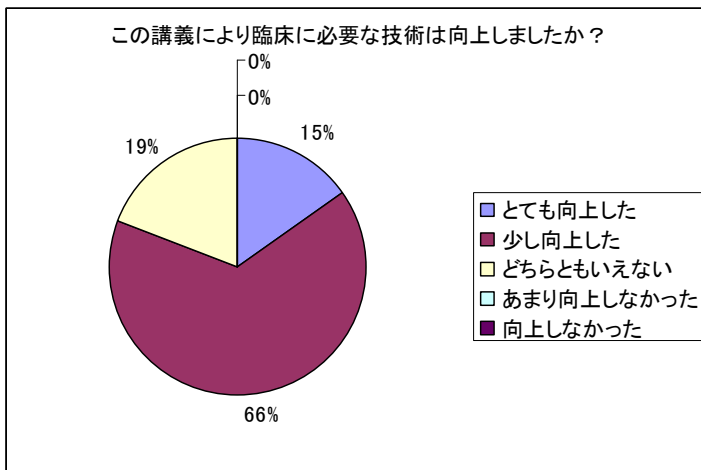
89%の学生が「臨床に必要な知識が向上した」と感じていた。

質問6 臨床に必要な知識が向上したと特に思った講義。



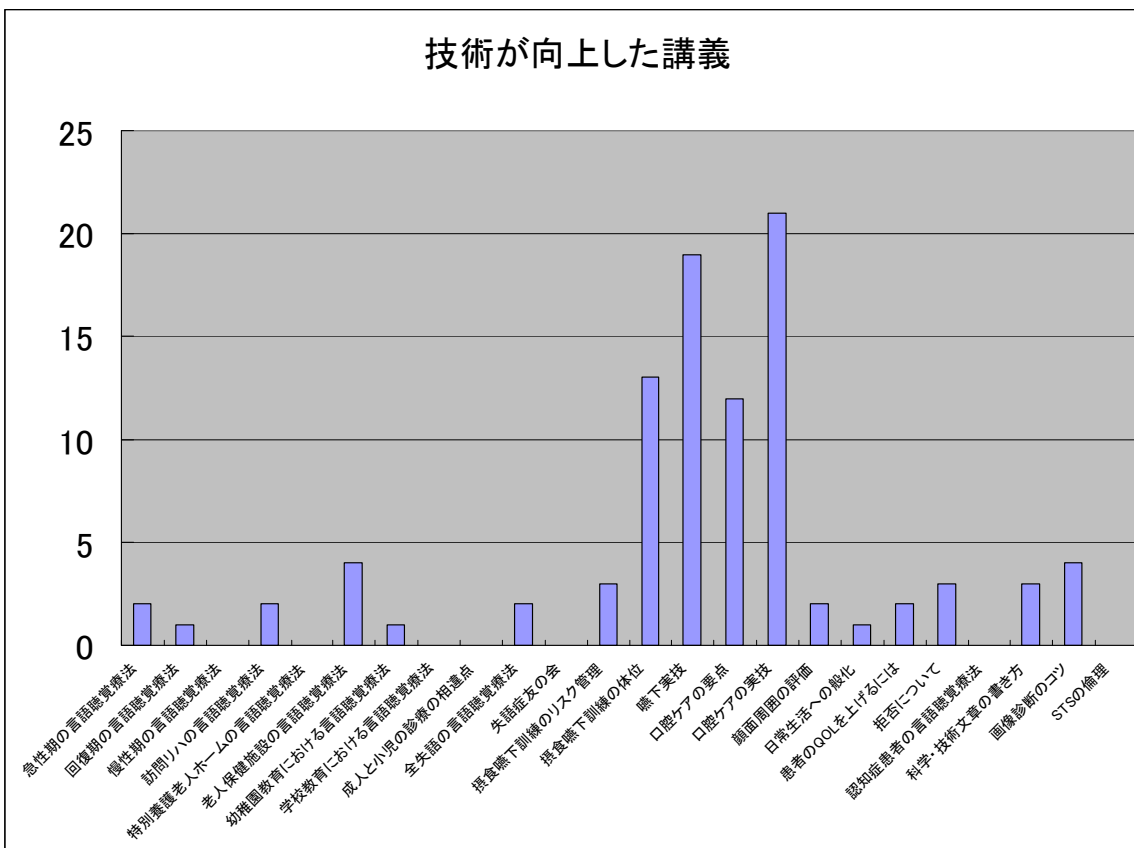
「摂食嚥下訓練の体位」「嚥下実技」「口腔ケアの要点」「口腔ケアの実技」など、嚥下の実技指導に対して多くの学生が「臨床に関する技術が深まった」と感じていた。それ以外には「科学技術の文章」の講義を受けて臨床に関する技術が深まったと感じている学生が多かった。

質問 7 臨床に必要な技術は向上したか。



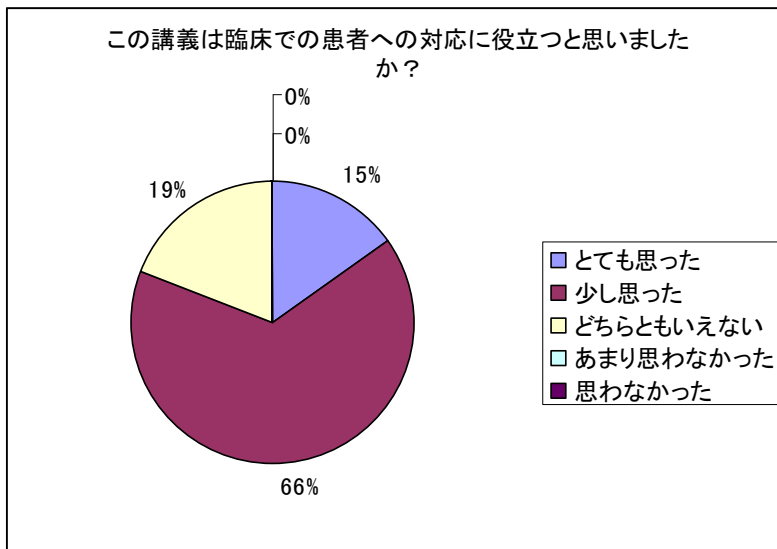
81%の学生が「臨床に必要な知識が向上した」と感じていた。

質問 8 臨床に必要な技術は向上したと特に思った講義。



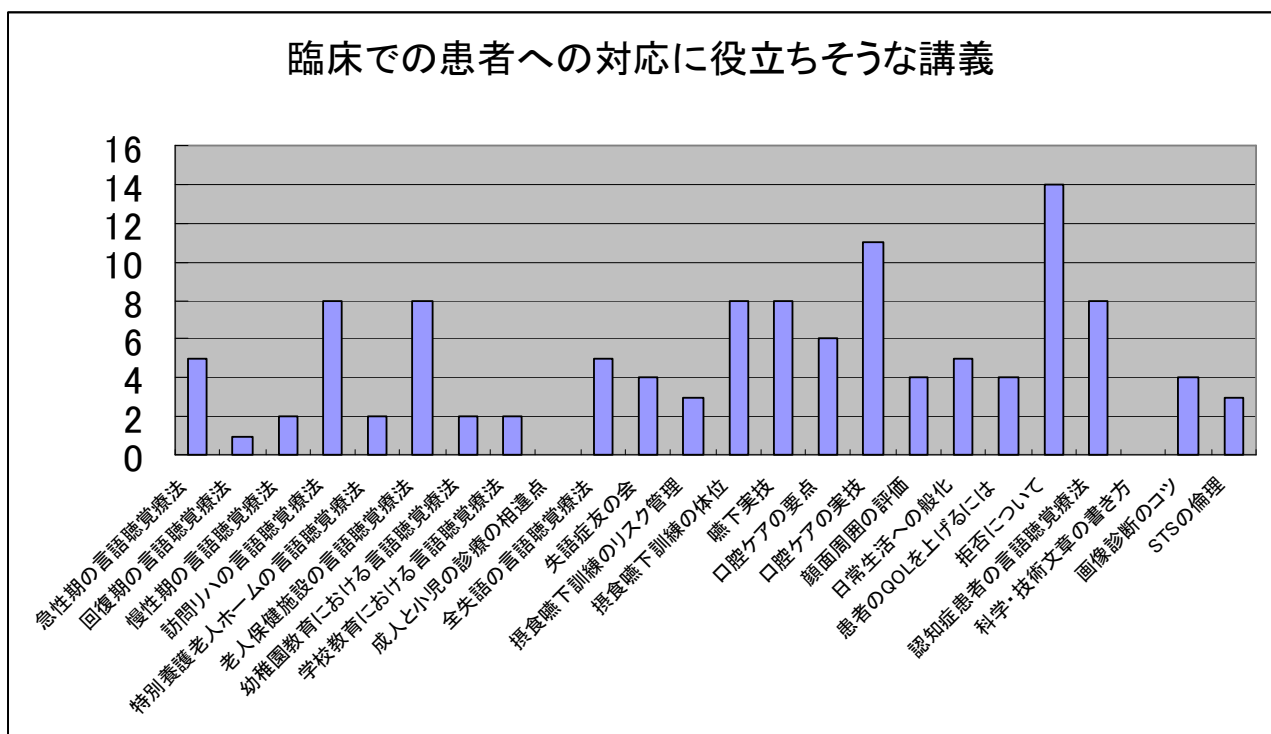
「摂食嚥下訓練の体位」「嚥下実技」「口腔ケアの要点」「口腔ケアの実技」など、嚥下の実技指導に対して多くの学生が「臨床に関する技術が深まった」と感じていた。それ以外には臨床に関する技術が深まったと感じている学生が目立って多い講義はなかった。

質問 9 臨床への患者への対応に役立つと思ったか。



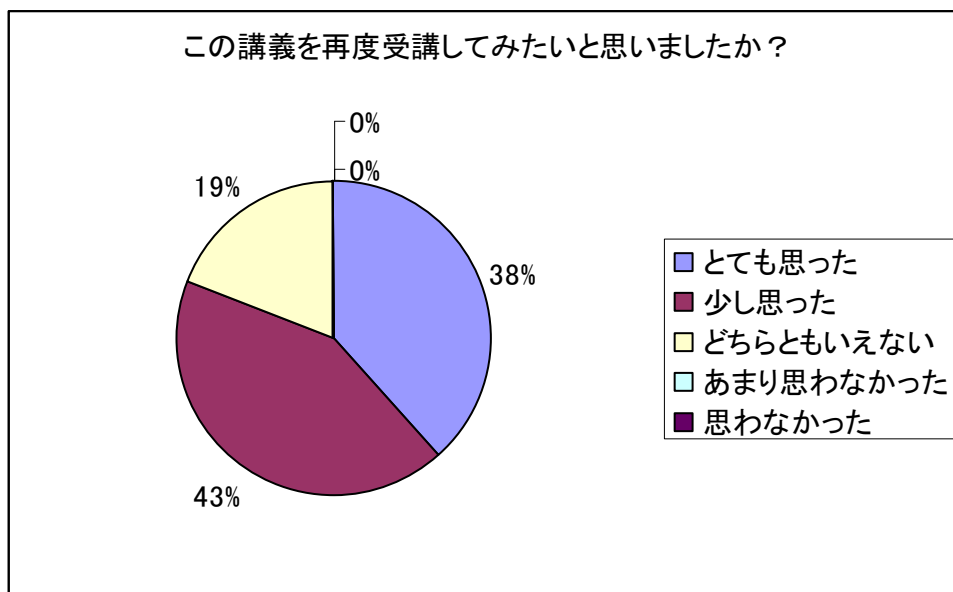
81%の学生が講義は「臨床での患者の対応に役立つ」と感じていた。

質問 10 臨床での患者の対応に役立つと特に思った講義。



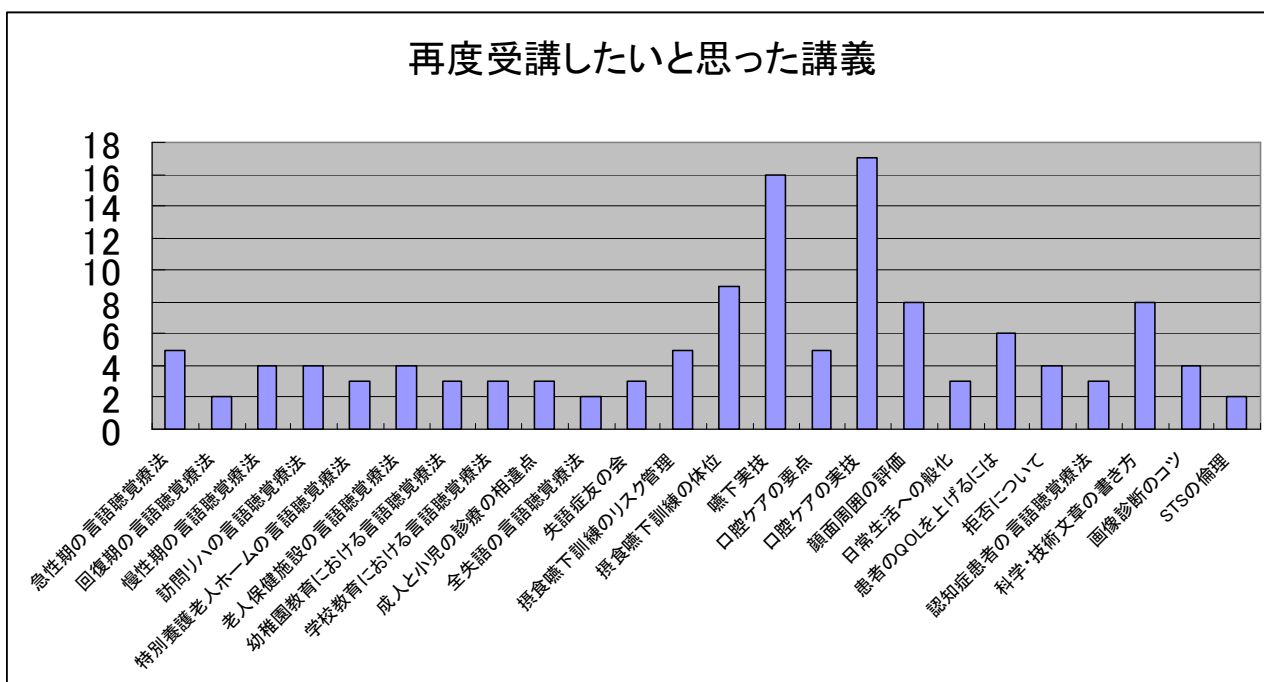
最も多くの学生が「臨床での患者への対応に役立つ」と感じていたのは「拒否について」であった。「摂食嚥下訓練の体位」「嚥下実技」「口腔ケアの要点」「口腔ケアの実技」など、嚥下の実技指導以外には、「訪問リハの言語聴覚療法」「老人保健施設の言語聴覚療法」「認知症患者の言語聴覚療法」などが臨床での患者への対応に役立つと感じる学生が多かった。

質問 11 特別講義を再度受講したいか。



81%の学生が特別講義を「再度受講してみたい」と感じていた。

質問 12 再度受講したいと思う講義。



「摂食嚥下訓練の体位」「嚥下実技」「口腔ケアの実技」「顔面周囲の評価」など、嚥下の実技指導に対して多くの学生が「再度受講したい」と感じていた。それ以外では「患者の QOL を上げるには」「科学技術文章の書き方」などを「再度受講したい」と感じている学生が多かった。

[考察]

4年制の言語聴覚士養成校である本学では、1学年で小児実習(8月中に幼稚園・保育園で3日間)・介護実習(3月中に介護施設で2週間)、2学年で体験実習(2月中に ST 現場で1週間)、3学年で評価実習(2月中に2週間)、4学年で長期臨床実習(ST 現場で12週間)を実施している。

また、カリキュラム的には、3年前期で言語聴覚療法に関する理論的な部分を一通り終わり、後期からは実技・演習中心の講義となる。

したがって、3学年の夏は、短期間であれ ST の現場について経験し、言語聴覚療法に関する大まかな理論を身につけている時期で、来るべき評価実習に向けての意識が次第に高まりつつある時期であるといえることができる。

こうした時期に、現場の言語聴覚士による実技中心の講義を受けることにより、座学で学んだ知識を再確認し、実習に向けた自らの課題を意識する意義があったと思われる。

また、講師を務めてもらった現場の言語聴覚士が、事前のアンケートで自分が最も学生に伝えたい項目を講義したことは、講師と学生の間が良い関係を築く大きな要因となったと考えられる。講師が顔の見慣れた専任講師でなく、もしかすると自分たちの実習指導者となるかもしれない現場の言語聴覚士であったことも、こうした関係のプラス要因になったであろう。

さらに、多くの講義が実技中心であったことは、来たるべき本格的な実習を意識しつつある学生たちのニーズに合っていたということは、アンケートにおける自由記述にもよく表れている。

本来であれば夏期休暇中である時期に講義が入ったことで、学生たちには不満が生起することも考えられたのだが、無記名によるアンケートでも多くの学生がこの講義を有意義だと回答していたのは、上記のような要因によると思われる。

各項目間で学生にとっての有意義感が異なっているのは、各講師の力量や学生間での人気など

も関係していると思われるが、講師にかかわらず嚙下に関する実技に人気が集中していることは、講師の個人的な要因よりも、学生の関心の高低に依存していることを示している。

一方で、自由記述の中で似たような講義が多かった、あるいはジャンルが偏っていたという不満を示す学生もあり、各領域の講義をまんべんなく受けたいというニーズも少数ながら存在していることがわかる。

また、自由記述では「進路」について言及する学生も複数存在し、現場の言語聴覚士との接触を、進路選択の参考にしようという意図もあるようである。

[まとめ]

今回我々の実施した臨床実習指導者による実技中心のスポット講義を、学生たちはおおむね肯定的にとらえていた。時期については概ね妥当だったと考えられるが、内容についてはさらなる見当が必要だと考えられる。今後は各学年におけるより有効なイベント的講義を企画・実施していきたい。

[別紙]

平成 19 年度特別講義アンケート 1 (無記名マークシート回答)

①特別講義を終えた時点での感想

質問 1 特別講義は意義があると感じましたか (試験終了時点の感想) ?

1. 大変あった 2. 少しあった 3. どちらともいえない 4. ややなかった 5. 全くなかった

質問 2 質問 1 で 1. 2 に○をつけた方は特に意義があると感じた講義に○をつけてください。(複数可)

注: 原本には講師名あり。

- 1 STS の倫理 2 成人と小児の相違 3 全失語の ST
- 4 特養の ST 5 認知症患者の ST 6 口腔ケアの要点
- 7 慢性期の ST 8) 幼稚園の ST 9 老健の ST
- 10 学校教育の ST 11 科学技術文章 12 訪問リハの ST
- 13 急性期の ST 14 顔面周囲の評価 15 口腔ケア実技
- 16 嚥下実技 17 失語症友の会 18 患者の QOL
- 19 回復期の ST 20 生活への般化 21 嚥下訓練の体位
- 22 嚥下訓練のリスク 23 拒否について

質問 3 この課題により臨床への理解は深まりましたか?

1. とても深まった 2. 少し深まった 3. どちらともいえない 4. あまり深まらなかった 5. 深まらなかった

質問 4 質問 3 で 1. 2 に○をつけた方は特に臨床への理解が深まったと感じた講義に○をつけてください。(複数可)

注: 原本ではこの後に科目名あり。以下同じ。

質問 5 この課題により臨床に必要な知識は向上しましたか?

1. とても向上した 2. 少し向上した 3. どちらともいえない 4. あまり向上しなかった 5. 向上しなかった

質問 6 問 5 で 1. 2 に○をつけた方は特に向上したと感じた講義に○をつけてください。(複数可)

質問 7 この課題により臨床に必要な技術は向上しましたか?

1. とても向上した 2. 少し向上した 3. どちらともいえない 4. あまり向上しなかった 5. 向上しなかった

質問 8 問 7 で 1. 2 に○をつけた方は特に向上したと感じた講義に○をつけてください。(複数可)

質問 9 この課題は臨床での患者への対応に役立つと思われましたか?

1. とても役立つ 2. 少し役立つ 3. どちらともいえない 4. あまり役立つなかった 5. 役立つなかった

質問 10 問 9 で 1. 2 に○をつけた方は特に役に立つと感じた講義に○をつけてください。(複数可)

質問 11 この講義を再度受講してみたいと思われましたか?

1. とても思った 2. 少し思った 3. どちらともいえない 4. やや思わなかった 5. 全く思わなかった

質問 12 問 11 で 1. 2 に○をつけた方は特に受講したいと感じた講義に○をつけてください。(複数可)

②評価実習を終えた時点での感想

質問 13 特別講義は意義があると感じましたか (試験終了時点の感想) ?

1. 大変あった 2. 少しあった 3. どちらともいえない 4. ややなかった 5. 全くなかった

質問 14 質問 13 で 1. 2 に○をつけた方は特に意義があると感じた講義に○をつけてください。(複数可)

質問 15 この課題により臨床への理解は深まりましたか?

1. とても深まった 2. 少し深まった 3. どちらともいえない 4. あまり深まらなかった 5. 深まらなかった

質問 16 質問 15 で 1. 2 に○をつけた方は特に臨床への理解が深まったと感じた講義に○をつけてください。(複数可)

質問 17 この課題により臨床に必要な知識は向上しましたか?

1. とても向上した 2. 少し向上した 3. どちらともいえない 4. あまり向上しなかった 5. 向上しなかった

質問 18 問 17 で 1. 2 に○をつけた方は特に向上したと感じた講義に○をつけてください。(複数可)

質問 19 この課題により臨床に必要な技術は向上しましたか?

1. とても向上した 2. 少し向上した 3. どちらともいえない 4. あまり向上しなかった 5. 向上しなかった
質問 20 問 19 で 1. 2 に○をつけた方は特に向上したと感じた講義に○をつけてください。(複数可)
質問 21 この課題は臨床での患者への対応に役立つと思われましたか？
1. とても役立った 2. 少し役立った 3. どちらともいえない 4. あまり役立たなかった 5. 役立たなかった
質問 22 問 21 で 1. 2 に○をつけた方は特に役に立つと感じた講義に○をつけてください。(複数可)
質問 23 この講義を再度受講してみたいと思われましたか？
1. とても思った 2. 少し思った 3. どちらともいえない 4. やや思わなかった 5. 全く思わなかった
質問 24 問 23 で 1. 2 に○をつけた方は特に受講したいと感じた講義に○をつけてください。(複数可)

平成 19 年度特別講義受験生アンケート 2 (記名筆記回答)

学籍番号 _____

氏名 _____

1. 今回の特別講義の時期や内容、ほかにこういう講義を受けたいというものがあれば、講師なども含めて書いてください。

2. 各講義について、特に気がついたことがあれば書いてください。

(1) STS の倫理 注：原本では講師名あり。

(2) 成人と小児の相違

(3) 全失語の ST

(4) 特養の ST

(5) 認知症患者の ST

(6) 口腔ケアの要点

(7) 慢性期の ST

(8) 幼稚園の ST

- (9) 老健の ST
- (10) 学校教育の ST
- (11) 科学技術文章
- (12) 訪問リハの ST
- (13) 急性期の ST
- (14) 顔面周囲の評価
- (15) 口腔ケア実技
- (16) 嚥下実技
- (17) 失語症友の会
- (18) 患者の QOL
- (19) 回復期の ST
- (20) 生活への般化
- (21) 嚥下訓練の体位
- (22) 嚥下訓練のリスク
- (23) 拒否について

3. その他特別講義に関する意見があれば、書いてください。

[別紙]

1. 今回の特別講義の時期や内容、ほかにこういう講義を受けたいというものがあれば、講師なども含めて書いてください。

- ・成人がほとんどだったので、小児系と耳・耳鼻科系の講義を受けたかったです。
- ・内容が少し難しかったと思いました。一度習ったことをもう一度聞くみたいな感じにすれば、理解しやすかったと思いました。
- ・時期は前期の授業が終わってすぐ入れてほしいです。(間をあけないでほしい)
- ・耳鼻科関係や補聴器関係の仕事の講義を受けたかった。
- ・吃音の患者様を担当されている ST の方の講義を受けてみたいと思いました。
- ・聴覚を専門的に受け持っておられる先生の講義を受けたい。
- ・学校の授業では検査に関する実技はするのですが、その他の実技が少ないので「ST 訓練室を出ると動けない ST」になりそうで少し不安がありますので、講義に取り入れてほしい。
- ・時期は、夏休みしか時間がなかったのですが、良かったと思います。内容がかぶっている授業もありましたが、勉強になりました。
- ・小児の分野で ST の子供や保護者への対応を具体的に教えてほしいです。
- ・時期はよかったです。
- ・あまりおぼえてません。病院の内情というか、臨床の現実的な話を聞いてみたいです。
- ・ディサースリアについての講義をもう少し増やしてほしいと思います。
- ・患者の行動面の介助法。
- ・口腔ケアや嚥下訓練の講義が何回もあったので、同じことの繰り返しだった。しかし、先生によって方法が異なったので勉強になった。
- ・実技を含めた講義がとても印象に残っていて、分かりやすいと思いました。
- ・講義で話を聞いているだけでは、あまり印象に残らなかったのですが、実技を交えながらの講義が良かったと思います。
- ・実習が入った講義が印象に残っており、後で行く長期・評価実習につながるものがあると思

ました。時に口腔ケアや嚥下に関する講義が多くて、勉強になりました。

- ・聴覚系の講義。
- ・夏休みにも学校に通うことで、生活リズムが崩れずに済んだのですが、午前中のみ特別講義を集中させて、午後からが自由という形にしていたら、午後の時間を試験対策にあてることができたとと思います。
- ・ディサースリアの検査・評価の講義を受けたい。
- ・訪問リハについてくわしく知りたい。
- ・STの診療報酬について（授業ではあまり聞けないので）
- ・内容は良かったんですが時期を変えてほしいです。

2. 各講義について、特に気がついたことがあれば書いてください。

(1)STSの倫理

- ・覚えてないです。
- ・実例を多く出していただけてわかりやすかったです。

(2)成人と小児の相違

記述なし。

(3)全失語のST

- ・SLTAの結果をよく分析し少しでも良好な部分を見つけること。

(4)特養のST

- ・STだけの訓練でなくOT.PT分野の訓練も請け負う場合があること。
- ・介護実習のときにSTの先生がいらっしやらなかったなので、講義で特養でのSTの活動が学べてよかったです。
- ・病院とは違う、特養の制度などがためになりました。

(5)認知症患者のST

記述なし。

(6)口腔ケアの要点

- ・口腔ケアのやりやすい方法を教えてもらい、みんなで実践できたのもよかった。
- ・スポンジブラシを使わずに口腔ケアを行う方法を知ることができ、また実際に先生がされている様子をビデオに撮って見ることができ、とても勉強になった。
- ・口腔ケアの際のガーゼの巻き方や、注意点など具体的な講義がよかった。
- ・口腔ケアの大切さ・技術。
- ・実際の口腔ケアのやり方を実践形式でやれてよかったです。
- ・実技を行いながら講義を受けたので分かりやすかった。
- ・実際に実技ができてわかりやすかったです。今まで何気に実技をやったことがなかったので。

(7)慢性期の ST

- ・患者様の訓練の様子を見て、その患者様の SLTA をグループで話し合うことができ良かった。

(8)幼稚園の ST

- ・自分が進みたい方向の話だったのでとてもためになりました。ただ、先生の発言内容に少し気になる点が見られました。
- ・ST というより保育士のことを話されていました。ST の先生を呼ぶべきだと思いました。
- ・授業の中で絵本を読んだのですが、感情の込め方などがとても難しく、絵本を読むということがとても難しい事なのだと感じました。
- ・絵本の読み聞かせの奥の深さ。
- ・絵本の読み聞かせの方法があって興味深かった。
- ・表現力が大切なことが実感できた。
- ・本の読み聞かせが多い。
- ・みんなが質問や意見が出来るような空気がなく、空気が悪く、興味も持てなかった。
- ・基本的な幼稚園、保育園の違いから教えてもらい、分かりやすかったです。

(9)老健の ST

- ・ビデオで老健の様子や訓練などが見られて、施設の中身がよく分かり身近に感じました。

・老健の ST はどんな感じなのか分からなかったが、実際に先生が仕事をされている様子を見て、老健への興味がわいた。また、先生の講義が楽しくてよかった。また、先生が老健のスタッフに行っている勉強会の様子をするのができとても勉強になった。

- ・実際の患者様の訓練等を見られたことや、訓練での工夫がためになった。
- ・食事の時の体位など写真や図を使って誰でもわかるようにすること。
- ・病院とは違う評価や訓練立案のやり方がためになりました。
- ・明るい職場を作ることが、患者さんにも良い影響を与えと思った。
- ・楽しそうに仕事をしていらっしやると思いました。
- ・面白い先生でした。

(10)学校教育の ST

- ・自分が進みたい方向の話だったのでとてもためになりました。
- ・学校教育に関係している ST の先生を呼ぶべきだと思いました。
- ・スモールステップという考え方がとてもためになりました。

(11)科学技術文章

- ・文章の技術が向上したと思います。
- ・実習ではレポート作成も重要になってくるので、文章の書き方はとても勉強になりました。
- ・実習でのレポートを短時間で書く方法を知ることが出来て良かった。
- ・レポートを書く際の注意点が聞けて良かったです。
- ・レポートを書く際の注意点など多くの事を学んだので、今後に活かしていきたいと思います。
- ・文章の組み立て方を知ることができた。
- ・文章の書き方について学ぶ良い機会となりました。
- ・論理的に文章を書くことを学べて良かったです。
- ・正しい文章の書き方を学んだような気がしました。
- ・レポートを書くときに役に立つと思う。
- ・文章の書き方について講義していただき、これから役立つと思います。

- ・文章を書くのが苦手だったので、書き方について講義を受けられてとてもよかったと思います。
- ・今までの文の書き方ではいけないと気づいた。
- ・今度から文章の書き方に気をつけようと思った。

(12)訪問リハの ST

- ・訪問リハの ST の仕事がどんな感じなのかを知らなかったのもとても役立った。また、歯科衛生士の方がこれ口腔ケアを知ることが出来てよかった。
- ・訪問リハに少し興味が持てました。
- ・訪問リハについてはあまり知識がなかったので、勉強することができてよかったと感じました。
- ・歯科衛生士の先生もこられて、口腔ケアの実技や器具にふれることができて、とても参考になった。
- ・訓練時にトラブルが起きたら一人で対処しなければいけないので責任重大だと思った。
- ・これから大きくなっていく分野だと思うので、いろいろと話がきけてよかったです。
- ・実際に使用されている道具を見せていただいたので、臨床でどんな役割をされているかわかりやすいように感じました。
- ・面白い先生でした。

(13)急性期の ST

- ・急変がよくあるので臨機応変な対応が求められる。
- ・初めて目にする実技を多く取り入れてあって勉強になりました。
- ・とても分かりやすかった。
- ・実技が多く、その途中にパワーポイントを使って説明してくれたので、とても楽しく、時間がたつのが早かったです。また、排痰療法なども教えていただいたので、来年もあったほうがいいです。
- ・来年もぜひ受けてたいです。講義内容も分かりやすかったです。

(14)顔面周囲の評価

- ・講義が早く進められたのでついていけなかった。

- ・初めて目にする実技を多く取り入れてあって勉強になりました。
- ・とても分かりやすかった。
- ・実技が多く、その途中にパワーポイントを使って説明してくれたので、とても楽しく、時間がたつのが早かったです。また、排痰療法なども教えていただいたので、来年もあったほうがいいです。
- ・来年もぜひ受けてたいです。講義内容も分かりやすかったです。

(15)口腔ケア実技

- ・口腔ケアは初めて実技を体験してみて、実習でも重要になってくるので、身に付けておくべきだと思いました。
- ・実際に口腔ケアの方法を教えてくださいとても役立った。
- ・実技中心で、様々な方法や対応を実際に出来たところがよかった。
- ・とてもわかりやすかった。
- ・初めて目にする実技を多く取り入れてあって勉強になりました。
- ・どんな質問にも親切に分かりやすく答えていただきました。
- ・実際の様子を確認できてよかったです。
- ・とても分かりやすかった。
- ・実技が多く、その途中にパワーポイントを使って説明してくれたので、とても楽しく、時間がたつのが早かったです。また、排痰療法なども教えていただいたので、来年もあったほうがいいです。
- ・来年もぜひ受けてたいです。講義内容も分かりやすかったです。

(16)嚥下実技

- ・実際に実技を行うことが出来て良かった。また、嚥下だけでなく、訓練の方法などを教えていただいた。
- ・いろいろな体位での嚥下実技を行えた。
- ・とてもわかりやすかった。

- ・初めて目にする実技を多く取り入れてあって勉強になりました。
- ・とても分かりやすかった。
- ・嚥下には興味があるので、ためになる講義でした。
- ・実技が多く、その途中にパワーポイントを使って説明してくれたので、とても楽しく、時間がたつのが早かったです。また、排痰療法なども教えていただいたので、来年もあったほうが良いです。
- ・来年もぜひ受けたいです。講義内容も分かりやすかったです。

(17)失語症友の会

- ・友の会について、実際に活動されている場面を見せていただけたりと、勉強になりました。
- ・友の会の立ち上げの話を知ることが出来て、臨床に出た後から参考になる話を聞けました。
- ・訓練や検査だけではなく ST の仕事の部分が分かりました。

(18)患者の QOL

記述なし。

(19)回復期の ST

記述なし。

(20)生活への般化

- ・ ST が考えるニーズと患者が考えるニーズは異なる。

(21)嚥下訓練の体位

- ・あまり体位などについて、くわしく学んだことがないので、勉強できてよかったです。
- ・ベッドサイドや車椅子等での嚥下訓練をした。患者様の気持ちを感じられる講義だったと思う。
- ・自分の体を使って体位を整える。

(22)嚥下訓練のリスク

- ・命にかかわることが多い。

(23)拒否について

- ・拒否を実際に受けた時に、どうするか等の話を聞いたことがよかった。

- ・訓練拒否に遭う可能性は高いのでよく勉強になった。

3. その他特別講義に関する意見があれば、書いてください。

- ・もしよければ来年は夏休みに集中の講義がない方がいいです。

- ・いくつか講義内容がかぶるものがありました。そこは数を減らしてもらいたいと思います。とても熱心に教えていただき、臨床の ST の方々の仕事内容が見えました。

- ・実際に臨床の ST の先生方に話をさせていただくことはとても有意義な時間となりました。

夏休みということで自分の時間はなくなりましたが、とても良い講義でした。

- ・病院や施設で働いていらっしゃる ST の先生方の生の声が聞けてよかったです。病院の内情や臨床でのリアルな話とか、そういう話をもっといっぱい聞きたかったです。

- ・嚥下の実技が多く、各先生方のポイントがぼやけて伝わってしまった気がしました。

- ・内容がかぶっていて、同じようなことを毎日やった覚えがあります。先生によってやり方が違い、自分のためにはなりましたが、もっと違うことも聞きたかったです。

- ・病院によって同じ口腔ケアでも方法が違っていたので、他の病院の方法も知りたいと思いました。

- ・嚥下の実技が3回ほどあったので、少し内容がかぶっていたようです。でも臨床への理解が深まりました。

- ・講義の内容が 2.3 人、少しずつかぶっていた点が講義を受ける側としては少し物足りませんでした。各先生方で少しずつ手技が異なるので、全て見る方が良いとは思いますが、特別講義という短い期間に行う講義としては、内容がかぶっていると、「また…」という気持ちになりました。

- ・講義内容がかぶるのが多かった。

- ・ジャンルが偏っていた気がします。進路を考えるには足らなかったです。様々な分野で活躍している ST の話を聞きたかったです。

- ・嚥下の実技などは、何回かかぶる部分があったので、プリンやヨーグルトだけでなく、刻み食やとろみ食なども実技で体験してみたいなと思いました。

- ・実技を増やしてほしいです。

- ・似たような分野が多かったと思うので、いろんな分野の話を聞きたかったと思いました。
- ・分野に偏りがあったような気がします。ST という職種が活躍している場面はもっとあると思うので、生徒の進路をもう少し考えて講義をしてほしかったです。
- ・3年の夏休みにこのような特別講義があることを決まった段階で教えてほしかったです。今後も毎年行うのであれば、入学の時点で生徒に伝えるべきだと思います。